

受任者数と連署数の関係(連署必要人数: 3万人として)

①受任者 100人の場合	受任者ひとり連署	300人
②受任者 300人の場合	受任者ひとり連署	100人
③受任者 500人の場合	受任者ひとり連署	60人
④受任者1000人の場合	受任者ひとり連署	30人
⑤受任者3000人の場合	受任者ひとり連署	10人

上記のように、計5次にわたってリコール運動を展開してはどうだろうか。

パームの実績とHPなどの遺産をフルに活用するためにも、リコール運動の推進母体は西舞鶴の環境を考える会とする。このHPを使って、すぐにも受任者の募集を始める。

【横浜の市長リコールの場合】

- ①リコールに必要な署名は、49万人。
- ②リコール運動は、受任者(署名収集受任者)5万人を目標とし、受任者ひとりあたり10人の連署を集める計画。
- ③受任者3万5千人が集まった段階で、コロナの影響でストップ。署名活動を延期した。
- ④受任者3万5千人でも、受任者ひとりあたりの連署集めは10人から14人と、わずか4人増えるだけだが、あくまで受任者5万人にこだわり、リコールをより確実なものにしようとしている。

【名古屋市の議会リコールの場合】

- ①リコールに必要な署名は、36万6千人。
- ②受任者集めは、計96万枚のはがきで署名集めを希望する市民を集める一方、街頭での呼び掛けなどで、計4万3千人の受任者を集めた。
- ③そして計4万3千人の受任者は、ひとりあたり連署9人を集めてリコールに成功した。

このように、リコールの成否は受任者集めにかかっているようだ。